



メールボックスのサイズの制御

ユーザのボイスメールボックスのサイズを制御するために、Cisco Unity Connection の管理を使用して、メールボックス サイズ使用割当量の指定とメッセージ エージング ポリシーの変更を行うことができます。次の各項を参照してください。

- [メールボックス サイズ使用割当量の指定 \(P.22-2\)](#)
- [メッセージ エージング ポリシーの変更 \(P.22-3\)](#)

メールボックス サイズ使用割当量の指定

ユーザのボイスメールボックスのサイズを制御するために、Cisco Unity Connection を使用して、ボイスメールボックスの最大サイズに対して使用割当量（制限）を指定できます。デフォルトでは、Connection には、表 22-1 に示したシステム全体のメールボックス サイズ使用割当量が設定されています。システム全体の使用割当量を変更するには、P.22-2 の手順「システム全体のデフォルトの使用割当量を変更する」の手順を実行します。

ユーザおよびテンプレートに対してカスタム使用割当量を指定すると、システム全体の使用割当量を上書きできます。手順については、『Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザアカウントの設定によって制御される機能の設定」の章の「メールボックス サイズの割り当て」の項を参照してください。

表 22-1 メールボックス サイズ使用割当量

使用割当量レベル	使用割当量アクションをトリガーするメールボックスサイズ	使用割当量に達したときのアクション	使用割当量に達するまでの録音時間（分）				
			G.711 μ 法	G.711 A-Law	G.726 32 Kbps	PCM 8 kHz	G.729a
警告	12,000,000 バイト	ユーザは、メールボックスが最大許容サイズに達しつつあることを警告されます。	25	25	50	50	200
送信	13,000,000 バイト	ユーザは、これ以上のボイスメッセージを送信できなくなります。	27	27	54	54	217
送信 / 受信	14,745,600 バイト	ユーザは、これ以上のボイスメッセージを送受信できなくなります。	31	31	61	61	246

システム全体のデフォルトの使用割当量を変更する

ステップ 1 Cisco Unity Connection の管理で、[メッセージストレージ (Message Storage)] を展開し、[メールボックスクォータ (Mailbox Quotas)] をクリックします。

ステップ 2 必要に応じて、[カスタム (Custom)] をクリックし、隣にあるフィールドに値（メガバイト単位）を入力することにより、次の使用割当量を設定します。

- [警告クォータ (Warning Quota)]
- [送信クォータ (Send Quota)]
- [送信 / 受信クォータ (Send/Receive Quota)]

[警告クォータ (Warning Quota)] の値は [送信クォータ (Send Quota)] の値以下にし、[送信クォータ (Send Quota)] の値は [送信 / 受信クォータ (Send/Receive Quota)] の値以下にしてください。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

メッセージエージングポリシーの変更

Cisco Unity Connection では、ボイスメッセージを格納するハードディスクがいっぱいにならないように、メッセージエージング規則を設定して次の処理を自動的に実行できます。

- 既読メッセージを、指定した日数が経過した後に [削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダに移動する。この規則は、デフォルトでは無効になっています。
- [削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダにあるメッセージを、指定した日数が経過した後に完全に削除する。この規則は、デフォルトで有効になっています。
- メッセージの経過日数に基づいて、何らかの方法（保存する、削除する、一度開いて新規メッセージとして保存するなど）で操作された安全なメッセージを完全に削除する。この規則は、デフォルトでは無効になっています。
- メッセージの経過日数に基づいて、ユーザがメッセージを再生したかどうか、または何らかの方法で操作されたかどうかにかかわらず、すべての安全なメッセージを完全に削除する。この規則は、デフォルトでは無効になっています。

これらのメッセージエージング規則は、有効または無効にできます。また、各規則にそれぞれ別の日数を指定することができます。メッセージエージングポリシーを有効または無効にすることもできます。ポリシーを無効にすると、規則は規則自体の設定にかかわらず適用されなくなります。

メッセージエージングポリシーを有効にし、1 つまたは複数のメッセージエージング規則を有効にした場合も、[ボイスメールボックス (Voice Mailbox)] ページで個々のユーザのメッセージエージングを無効にすることができます。ただし、この逆の設定はできません。メッセージエージングポリシーを無効にした場合は、個々のユーザのメッセージエージング規則を有効にすることはできません。

メッセージエージング規則の中には、メッセージが最後に変更を加えられた時点に基づくものがあります。メッセージのステータスを修正するには、ユーザは次のいずれかの手順を実行する必要があります。

- Cisco Unity Inbox で、メッセージに新規または削除済みのマークを付けるか、メッセージの題名を変更して、[保存 (Save)] をクリックする。
- 電話インターフェイスで、メッセージに新規のマークを付ける、メッセージを再保存する、メッセージを削除する、削除済みメッセージを開封済みに戻す、のいずれかのオプションを選択する。

これらのいずれのオプションも選択せずに、単にメッセージを聞いた場合には、メッセージのステータスは変更されません。

メッセージエージングポリシーを変更する

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[メッセージストレージ (Message Storage)] を展開し、[メッセージエージングポリシー (Message Aging Policy)] をクリックします。
- ステップ 2** 必要に応じて設定を変更します。個々のフィールドについては、ヘルプを参照してください。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。

Connection でメッセージエージングポリシーが有効である場合は、個々のユーザおよびテンプレートに対してメッセージエージングポリシーを有効または無効にすることができます（デフォルトでは、ユーザテンプレートで、ユーザのメッセージエージングが有効となるように指定されています）。

■ メッセージ エージング ポリシーの変更

個々のユーザおよびテンプレートのメッセージ エージング ポリシーを変更する方法については、『Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更 ガイド』の「ユーザアカウントの設定によって制御される機能の設定」の章の「メッセージのエージング」の項を参照してください。